

Intel® PRO/100+ マネージメント・アダプタ最新情報

サポートや最新ドライバは：
<http://support.intel.co.jp>

1999年3月版

このドキュメントではインストール・ガイドに記載されていない、以下のことに関して説明します。

- 最新のドライバの使用
- Windows NT インストール中でのアダプタの追加
- Intel 製のアダプタが既にインストールされている場合
- Windows NT 4.0 において、アダプタを挿入しているスロットを変更する場合
- PRO/100+ マネージメント・アダプタをインストールする場合の注意点
- Windows 98 でソフトウェアやドライバをアップデートする場合
- 全二重通信への対応
- Readme ファイルの参照
- SETUP.EXE の実行
- DMI-SNMP のサポート
- DOS ODI のサポート
- PCI 割り込み
- Windows 95/98 や DOS 用の Novell Client 32 を用いる場合
- NetWare 3.11j サーバでの使用
- NetWare 3.12j サーバでの使用
- 商用 UNIX での使用について
- PC98 認定について
- ブート・エージェントに関する資料
- プッシュ・インストール
- MAKEMS.BAT エラー・メッセージ
- LANDesk™ Client Manager について
- BROW.EXE ユーティリティについて

最新のドライバの使用

最新のドライバを使用していることを確認して下さい。最新のドライバを手にいれるためには、インテルのサポート Web サイト、<http://support.intel.co.jp> を参照してください。

Windows NT* インストール中でのアダプタの追加

Windows NT インストールと同時にドライバをインストールするためには、付属の CD-ROM から MAKEMS.BAT を用いてインストール用のフロッピー・ディスクを作成し、それを用いるか、Windows NT のインストールを完了させてから、アダプタのインストールを行ってください。また、MAKEMS.BAT ファイルは、その実行中に .CAT ファイルがコピーできなかったという意味のメッセージを表示しますが、このメッセージは無視してください。

Intel 製のアダプタが既にインストールされている場合

Windows 98 システムの場合：PRO/100+ マネージメント・アダプタを Windows 98 システムにインストールしようとする場合で、そのシステムに既に Intel 製のアダプタがインストールされている場合は、このドキュメントで後述する「Windows 98 におけるソフトウェアとドライバのアップデート」を参照してください。

他の OS を用いたシステムの場合：コントロールパネル等を用いてインストールされているアダプタを削除してから、PRO/100+ マネージメント・ア

ダプタのソフトウェアやドライバのインストール作業を行ってください。この作業を行うことで最新のソフトウェアやドライバがロードされるようになり、また、PRO/100+ マネージメント・アダプタ独自の機能が使用できるようになります。

Windows NT 4.0 でアダプタが挿入してあるスロットを変更する場合

PRO/100+ マネージメント・アダプタを Windows NT システム上で異なったスロットに移動する場合、コントロールパネルの [ネットワーク] をクリックし、アダプタを削除してから、スロットを変更してください。そして、アダプタを挿入するスロットを変更した後に、ドライバをインストールし直してください。

PRO/100+ マネージメント・アダプタをインストールする場合の注意点

PRO/100+ マネージメント・アダプタは Wake on LAN 機能を持ち、PCI 2.2 仕様に従ったマザーボードで使用する場合は、システム電源 OFF 時も、PCI バスより電源の供給を受けるようになっています。また、PCI 2.2 準拠でないマザーボードでも、付属の 3 ピンの WOL 用電源ケーブルを用いて、システム電源 OFF 時に電源供給することができる場合があります。一般的なシステムでは、電源のスタンバイ電力供給により、システム電源 OFF 時の電力供給がなされます。そのため、PRO/100+ マネージメント・アダプタで WOL 機能が使用できるかどうか、また、アダプタが十分な電源供給を受けられるかは、システムで使用している電源ユニットの STANBY(スタンバイ)と記述されている容量に

次頁へ



左右されます。また、マザーボードの他のデバイスや外部デバイスも、このスタンバイ電源を使用する場合があります。その場合は、PRO/100+ マネージメント・アダプタが必要とする電源容量および他のデバイスが必要とする電源容量の総和が、使用している電源ユニットの容量を超えない必要があります。特に、複数枚の PRO/100+ マネージメント・アダプタを WOL 用電源コネクタを持たない PCI 2.2 対応の 1 つのシステムで使用する場合は、この点に注意が必要です。PRO/100+ マネージメント・アダプタは 1 枚あたり、0.2A のスタンバイ電源の供給を必要とします。(PCI 2.2 に対応していない場合は、スタンバイ電源の供給は WOL 用電源ケーブルを用いてなされマザーボード上には一般に 1 つの WOL 電源コネクタがあるだけのため、2 枚以上のアダプタにスタンバイ電源を供給することはできません。)

もし、複数枚のアダプタのインストールが必要である場合は、PRO/100+ サーバ・アダプタの使用を検討するか、後述する BROW.EXE ユーティリティを使用してください。

サーバ・アダプタはデフォルトでは、スタンバイ電源を必要としませんので、複数枚のアダプタを使用する場合は、そちらを使用することを推奨します。

Windows 98 でソフトウェアやドライバをアップデートする場合

Windows 98 を使用していて、かつドライバをアップデートしたり、アダプタを追加する場合は、コントロールパネルを起動し、[デバイス] タブをクリックし、ネットワークをクリック、PRO/100+ Management Adapter をダブルクリックします。そして [ドライバ] タブをクリックし、更新ボタンをクリックします。[ドライバの更新ウィザード] が起動されますので、それを指示に従い実行し、ドライバのアップデートを行います。この時、[特定の場所にある全てのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する] を選び、その後表示される画面で、[すべてのデバイスを表示] を選択してください。そして、アダプタを選択し、[ディスクを使用] をクリックして、添付の CD-ROM を用いてインストールを行ってください。

また、ACPI モード Wake on LAN の機能を使用する場合は、Microsoft Windows 98 のサービスパック 1 の配布を待って、それをインストールしてから使用してください。この配布については、Microsoft 社の Web サイトを参照してください。

また、APM モードで Magic Packet* を使用する場合は、PRO/100+ アダプタ用ドライバ v.3.1 を用いてください。このドライバは、

<http://support.intel.co.jp> で入手できます。

全二重通信への対応

全二重通信モードで PRO/100+ マネージメント・アダプタを動作させるためには、全二重通信対応のスイッチに接続する必要があります。

スイッチが自動認識 (Auto Negotiation) 対応であれば、PRO/100+ マネージメント・アダプタとスイッチは、お互いに交信しあって、最適なモードを選択することができます。また、スイッチが全二重通信モードに固定されている場合 (自動認識機能が無効になっている場合) は、PRO/100+ マネージメント・アダプタの設定も全二重通信モードに固定する必要があります。この時はスピード (100Mbps/10Mbps) も固定設定にしてください。この点に関しては「インストール・ガイド」の「デュプレクス・モード」の節を参照してください。

Readme ファイルの参照

readme ファイルを参照するためには、DOS を起動し、英語モードに切り替え、付属の CD-ROM を挿入し、そのドライブをカレント・ドライブとし

SETUP /README

と入力してください。

README ファイルには以下の情報が含まれています。(英文)

- ・ アダプタのインストール
- ・ 最新のニュースやアダプタについて総合的情報
- ・ ハードウェアの仕様やケーブルについての情報
- ・ 特殊な設定
- ・ 検査プログラムの実行方法

SETUP.EXE の実行

DOS や Windows 3.1 を動作させている環境では、検査プログラムの実行や、インストール時に発生するかもしれない問題についてのドキュメントや、アダプタについての情報、その他のヘルプを参照するためには、付属 CD-ROM 上の SETUP.EXE を英語モードで実行してください。この場合、PRO/100+ マネージメント・アダプタに対してはアダプタに付属する CD-ROM 内のプログラムを使用してください。古いバージョンのアダプタ付属のプログラムは動作しないことがあります。また、これらの実行は、Windows 内の DOS プロンプトでなく、純粋な MS-DOS の環境で行ってください。

SETUP をネットワーク・ドライバが既にロードされている環境で実行すると「ドライバをアンロードしてから実行してください」という意味のメッセージが表示されます。DOS ODI のクライアントが実行されている環境では、DOS を再起動して、起動時に F5 キーを押して、ドライバをロードさせないで DOS を実行するか、クライアント・ソフトウェアのアンロード・オプションを使用し、ドライバをアンロードしてください。例えば：

```
C:¥NWCLIENT¥VLM /U
C:¥NWCLIENT¥IPXODI /U
C:¥NWCLIENT¥E100BODI /U
C:¥NWCLIENT¥LSL /U
```

と入力してください。

DOS ODI クライアント用モジュールとドライバのアンロードはロードした時と逆の順番で行います。

DMI-SNMP サポート

付属の CD-ROM に DMI-SNMP 対応用のファイルが含まれています。より詳しい情報についてはフォルダ "¥DMI-SNMP" の下のサブフォルダにある .TXT ファイルを参照してください。

DOS ODI サポート

E100BODI を使用する時は、最新の DOS ODI 用 NetWare クライアント・ソフトウェアを使用してください。古いバージョンのクライアント・ソフトを用いると問題が発生する可能性があります。

PCI 割り込み

割り込みの共有

PRO/100+ マネージメント・アダプタ種々の OS において PCI 割り込みの共有に対応しています。(OS/2 は除きます) ただし、PRO/100+ マネージメント・アダプタと割り込みを共有しようとするデバイスのドライバが割り込みの共有に対応していない場合があります (例：特定の SCSI コントローラ)。その場合には、そのデバイスの技術サポートと連絡をとり、割り込み共有に対応している

ドライバを手にいれるか、割り込みを共有しないように BIOS 設定等を行ってください。

割り込みの設定

PCI 対応のコンピュータはブート時に PCI アダプタを自動的に認識し、その設定を行います。PRO/100+ マネージメント・アダプタが使用する I/O やメモリのアドレス範囲や割り込み番号の設定は、コンピュータを起動することに BIOS が行います。

もし、この設定を手動で変更したい場合は使用しているコンピュータのマニュアル等を参照してください。付属 CD-ROM 内の SETUP.EXE プログラムや PROSET プログラムでは、この設定を変更することができません。

Windows 95 や DOS 用の Novell Client 32 を用いる場合

Novell の Client 32 クライアント・ソフトウェアを PRO/100+ マネージメント・アダプタと使用する場合は、インストール時に付属の CD-ROM を用いなくてもドライバの選択肢として PRO/100+ Management Adapter がリストされますが、これは、古いバージョンのドライバを示しています。付属の CD-ROM 上のドライバをインストールするようにしてください。また、AHSM ドライバを用いることを推奨します。

NetWare 3.11J サーバでの使用

NetWare 3.11J サーバで、PRO/100+ マネージメント・アダプタを使用する場合は、STARTUP.NCF に以下のラインを追加する必要があります

```
SET MAXIMUM PHYSICALRECEIVE PACKET SIZE = 2048
```

このラインは、サーバで用いられる事前割り当てのパックのサイズを指定します。一方、この指定はパケット・サイズを変更するものではありません。サイズを上記のサイズか、それ以上のサイズに指定してください。

NetWare 3.11J で使用するドライバは、ドライバ・スペック 3.2 のものが付属の CD-ROM のディレクトリ ¥NWSERVER¥311LAN にあります。より詳しい情報については README ファイルの NetWare 3.11 のところを参照してください。

NetWare 3.12J サーバでの使用

NetWare 3.12J で使用する場合は、2 つ目以降のアダプタ・カード用ドライバのロード時に問題が発生した場合、ドライバ・ロード時のパラメータとして、IOMAPMODE = 1 を指定してください。

商用 UNIX での使用について

UNIX OS で PRO/100+ マネージメント・アダプタを使用する場合は、ドライバのインストール方法については、付属の CD-ROM のファイル ¥INFO¥UNIX¥UNIX.TXT を参照してください。

PC98 認定 (PC98 Certified) について

PC98 認定済みのドライバ・セットを含むインストール用のディスクが必要な場合は、以下のファイルを PRO/100+ マネージメント・アダプタの付属 CD-ROM より実行してください。

```
¥MAKEDISK¥PC98CERT.EXE
```

このファイルの実行により、インストール用のディスクを作成するには、フォーマットされた空のフロッピーディスクを A: ドライブに挿入し、DOS プロンプトで、¥MAKEDISK ディレクトリに移動し、

```
PC98CERT A:
```

と入力し、改行キーを押します。

ブート・エージェントに関する資料

Intel(R) Boot Agent に関する資料が必要な場合は、以下のアドレスから PDF フォーマットのファイルをダウンロードしてください。

<http://support.intel.com/support/etherexpress/pro100/manual.htm>

プッシュ・インストール

プッシュ・インストールを行う場合、プッシュ・インストール・ファイルが、存在しないファイル (E100B.CAT) をコピーしようとし、そのプッシュ・インストールを中断させてしまうことに注意してください。この現象を引き起こさないようにするためには、CUSTOM.INF を編集して、全ての E100B.CAT に関する行を削除するか、新しいバージョンのドライバを入手してください。新しいドライバはインテルのサポート・サイト <http://support.intel.co.jp> に準備されます。

MAKEMS.BAT のエラー・メッセージ

MAKEMS.BAT バッチ・ファイルの実行時に ".CAT" ファイルがコピーできなかったという意味のメッセージが表示される時がありますが、このメッセージは無視してください。

LANDesk™ Client Manager について

付属の CD-ROM 内に含まれる LANDesk Client Manager ソフトウェアは、限定サポートの製品として提供しています。このソフトウェアは日本語環境では動作検証されていません。また、インテル (株) は、このソフトウェアを用いた場合に生じる問題や質問等に対するサポートをお断りする場合があります。

BROW.EXE ユーティリティについて

インテルの Web サイト <http://support.intel.co.jp> の「ソフトウェア、ドライバ・ダウンロード」のコーナーよりダウンロードできる BROW.EXE ユーティリティ (ブート ROM/Wake on LAN ユーティリティ) を用いると PRO/100+ マネージメント・アダプタのブート ROM や Wake on LAN の機能を無効にすることができます。ブート ROM が問題を起こす場合や、スタンバイ電源の容量が不足している場合に、このユーティリティを使用してみてください。

Copyright © 1999, Intel Corporation. All rights reserved. Intel Corporation, 5200 N.E. Elam Young Parkway, Hillsboro, OR 97124-6497. Intel Corporation assumes no responsibility for errors or omissions in this document. Nor does Intel make any commitment to update the information contained herein. * Other product and corporate names may be trademarks of other companies and are used only for explanation and to the owners' benefit, without intent to infringe.

An Intel product, when used in accordance with its associated documentation, is "Year 2000 Capable" when, upon installation, it accurately stores, displays, processes, provides, and/or receives date data from, into, and between the twentieth and twenty-first centuries, including leap year calculations, provided that all other technology used in combination with said product properly exchanges date data with it. See <http://www.intel.com/support/year2000> for more information.

+